地域と教科の連携と情報教育

愛媛県立松山北高等学校中島分校
中川　寿

1　はじめに

本校は六つの有人島と 23 の無人島で構成されている忽那諸島で､最大の面積を持つ中島に設立されている。創立から 60 年余りの伝統があり、３千人を超える卒業生を送り出してきたが、平成３年から各学年１クラスとなり、今年度は現在全校生徒５６名になっている。島の人口減少に伴い地元の生徒は減り、７割近くの生徒がフェリーで通っている。学校再編計画で存続が危ぶまれる現在も、生徒達は恵まれた自然の中で、校訓「文・武・心」のもと、全校生徒が助け合い、競い合いながら地域と一体になって日々の学校生活を過ごしている。

１年生で「社会と情報」を履修した後、２年生から商業科目を選択する生徒は、商業科目「簿記」･「ビジネス実務」･「情報処理」を学んでいる。特に情報処理においては、授業を進めている中で、「社会と情報」で学んだこととリンクすることもあり、１年生から情報を学ぶことの有用性を感じている。

2　「社会と情報」関連のデータ

実施学年	１年
クラス数・人数	１クラス　25 名
使用教室・パソコン	情報処理教室・Window7 Professional
使用教科書	日本文教出版「社会と情報」
副教材	日本文教出版「情報のノート」

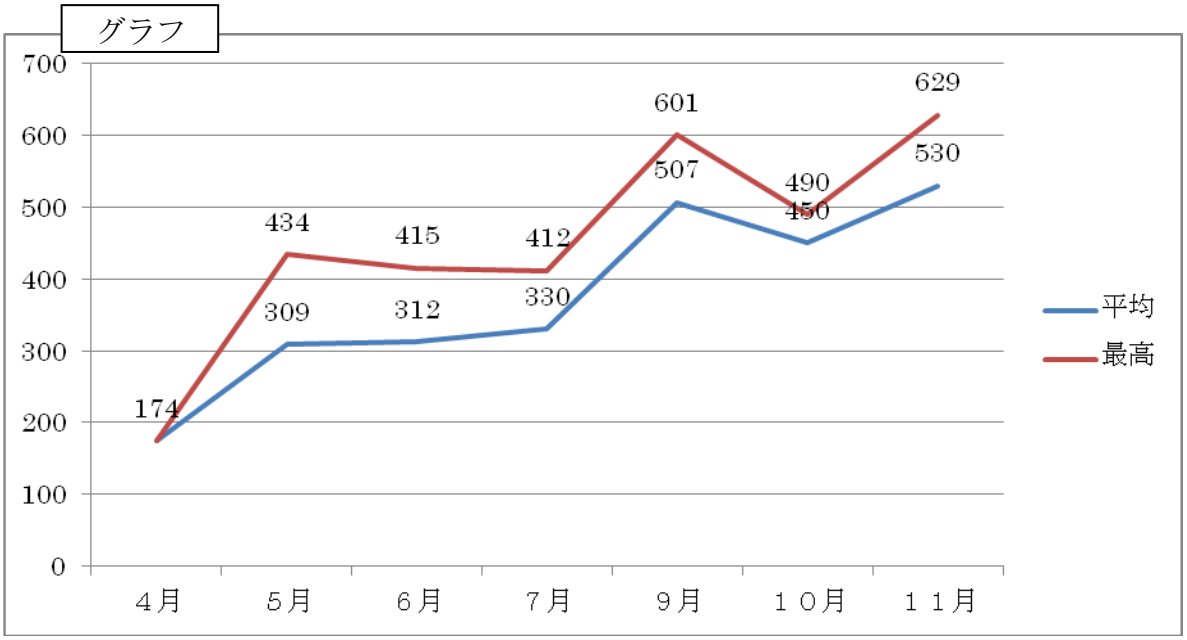
3　授業について

スマートフォンや携帯ゲーム機器が身近にある生徒たちは、情報機器に精通していると考えていたが、それは誤りであった。授業の始めには電源の入れ方から教えることとなり、基本的な操作を習熟させた。その後、情報社会について学ぶ意義を考えさせる時間をとり、便利な情報機器が一転すると情報危機を招くおそれもあることを周知した。特に、情報モラルに関しては、インターネットの掲示板、SNS を利用する際に注意すべきであること、学ばないでインターネットの世界に出ることは、裸で街中を歩くことと同じだと考え、それぞれに似合った服装を身につけて、「社会と情報」について学んで行くことを伝えた。特に高校１年生で起こりやすいトラブルとしては、入学して間もないため、友人間でのコミュニケーションツールであるスマートフォンや携帯電話、ネットによるものが多く、本校でも昨年に友人間の行き違いから、仲違いをする寸前までになったケースもあり、最も身近にあり、手軽に利用できるもので大きな問題が発生する怖さもしっかりと教えることにしている。

授業内容については、座学と実技を適宜行う。後に出てくる「総合的な学習の時間」や学校行事と連携をとっているため、模擬発表を兼ねて１学期は「表現と伝達」、「情報

の統合」の観点からパワーポイントを使用して発表をさせる。最初は、テーマを「将来の夢」と設定したが、自分が将来何をしたいのかが決まっていない生徒も多く、「将来の夢」よりも「興味のある職業」という考えを持ち、作成する生徒が多かった。発表スライドの作成によって、自己の将来を明確にすることは、今後の学校生活の中で目的意識をはっきりさせることができ、将来のためには何が必要なのかを考える良い時間になったと思う。また、相互評価を行い、友人の作品を①内容…テーマに合った内容かどうか。テーマについて理解できたか　②発表…声の大きさや態度など、聞きやすさ　③色合…プレゼンのレイアウトや見やすさ　④工夫…アニメーションや画像などの全体を通しての工夫度の四つの観点から各５点の 20 点満点で評価をさせた。親しい友人には甘い点数を付けるのかと思ったが、ほとんどの生徒は客観的に作品を観察し、与えられた評価基準のもとに公平な評価をしているように思えた。２、３学期は「総合的な学習の時間」のレポートをまとめ、それを文化祭で発表するためにワード、エクセルの授業も取り入れている。

また、４月初めの１～２時間の授業を、商業の教員によるタッチタイピング講座を開いてもらっている。そこで、毎時間授業の最初に数分タイピングを行うことにした。これにより、タッチタイピングの上達が期待でき、２年生以降履修する商業科目に関する検定試験を意欲的に受験しようとする姿勢が見られる。さらに授業においても目標の一つとして設定し、毎時間文字数を記録することで、達成感を味わうこともできる。下記グラフは１年生の 10 分間計測のタッチタイピングの推移である。４月は 200 文字に届かなかった生徒が、約半年で約４倍の入力スピードになっており、継続することの重要さを再認識できた。現在では、１年生全員が授業の開始前にはパソコンを起動させ、タッチタイピングを行う準備を自発的に行うなど、習慣化も徹底されてきている。中学校時代は授業に対して消極的であった生徒も、チャイム前から情報教室へ行き、自分で時間計測をしてタイピングを行うなど、「社会と情報」という授業が学校での楽しみの一つになっていると幸いである。



4　各教科・地域との連携

(1) 教科との連携

ア　数学（１年生、２年生）

数 学

本校には、情報機器に精通している数学科の教員がおり、情報教育を「社会と情報」のみで終えるのではなく、他教科でその学習内容を生かせないか相談したところ、快く引き受けていただいた。視覚から生徒に理解を促し、興味・関心を持たせることをコンセプトとし、マルチメディアに強い iPad を利用した。板書にすると時間と熟練が必要な二次関数の曲線などが素早く、美しく映し出され、生徒も非常に関心を持ち、目を輝かせ授業に取り組んでいた。さらに、他学年では、パワーポイントを使用した授業を展開し、情報教育が１年生の間の一過性の授業で終わるのではなく、そこから派生、発展し生徒の普段の授業にとけ込むように連携がなされている。

イ　情報処理（３年生）

３年生で履修をする情報処理は、全商情報処理検定の合格を目標の一つとしているが、基礎的・基本的な情報処理の知識・技術も同時に習得をする。専ら、エクセルについて学習をするが、１学期には自己の進路先などをパワーポイントで発表もさせる。２学期には Microsoft Publisher を使用し、文化祭用の広告ポスターを例年、作成をしており、生徒自身も試行錯誤をしつつ、わかりやすく効果的なポスターを作成しようと力を注いでいる。

ウ　古典文法・漢文（１年生）

配布したプリントを解答する際に、iPad に PDF 化したファイルに直接書き込むことで、口頭で解答をするよりも理解が深まる。また、解答の最中にもチェックポイントや間違いやすいところを随時書き入れができるため、生徒に分かりやすく、理解も早い。現在解答しているところも一目で分かるため、説明さえ聞いていれば、ノートをとることが苦手な生徒でも自分のペースで記入をすることができる。漢文では iPhone を使用し、画面に漢文を映した授業展開も行っている。身近な情報機器でこのような授業がなされることは生徒にとって新鮮であり、自分たちが学んだ情報機器や技術が授業にもこのように利用できることに驚いているようであった。

エ　ホームルーム（２年生　人権・同和教育）

パワーポイントや DVD などを使う人権・同和教育はこれまでにも多くあったが、今回は iPad を使用して「その時歴史は動いた」という水平社宣言を取り上げた番組を見た。iPad 内に取り込んでいるので、早送りなどの操作が素早く行われ、必要なシーンを直ぐに探し出すことができる。生徒にもどこのシーンが印象に残ったかを操作をしてもらいながら確認をさせることで、興味・関心を引かせつつ、人権・同

和教育を積極的に学ぶ姿勢を確立させていた。

ア～エの実践については、「社会と情報」の授業の中でも紹介や説明をすることで、機器の使用に関する内容だけではなく、ICT が様々なところで利用、活用されていることを理解させることができた。教科「情報」で基礎的・基本的な知識を学び、それを発展させていく実践力と発想力を養おうとする意識が生徒たちの中に芽生えてきたように思える。

(2) 地域との連携

ア　VYS・家庭クラブ

VYS では、中島分校の近くにある中島こども園で、夕涼み会などのボランティア活動を行っている。その際には、パソコンを使い、自分たちでくじ引きや園児の喜びそうなイラストを作成している。家庭クラブでは、中予支部総会などの発表において、エクセル、ワードを用いた展示の作成。高齢者との交流では、自分で書いたイラストをパソコンに取り込み、地域のお年寄りと特別養護老人ホームに年賀状や年賀カードとして送るなど自らが学んだ知識や技術を上手く活用し、地域に貢献をしている。

家庭クラブ発表

イ　文化祭・総合的な学習の時間発表会

地域との連携を深めるために、毎年情報処理の授業で３年生が作成したポスターを地域の企業や商店等に掲示をさせてもらっている。今年は、農業協同組合・中島汽船・中島支所・中島こども園・伊予銀行など八つの企業等に協力をいただいた。どの企業も快く引き受けていただき、中には「待ってました」と声を掛けてくれる店もあり、継続的な取り組みが中島分校と地域を密な関係にしていることを改めて感じることができた。今回は、新たな取り組みとして、「社会と情報」の時間に作成した中島分校の URL とリンクしている QR コードをポスターの中に組み込むことにした。船の待合室や銀行などは時間をもてあましている人も多く、スマートフォンや携帯電話で手軽に読み込んでもらい、中島分校のホームページへアクセスし、中島分校についてもっと知ってもらいたいと考えた。また、その甲斐もあってか、今年度の文化祭は昨年度よりも地域の方々や保護者の来校人数も多く、大盛況であった。

分校 QR コード

文化祭の当日には、「総合的な学習の時間」の発表もあり、１年生「地域の産業と歴史」、２年生「進路実現への自己理解と適正理解」、３年生「地域交流を通し、福祉を学ぶ、知る、体験する」とテーマ別に発表を行う。自分たちの体験したことをパワーポイントと展示用の発表資料にまとめ、掲示を行う。パワーポイントでの発表では、学年が上がるにつれて、堂々とした発表となっており、１年生から学んで

きた授業の成果を感じることができた。

5　連携を意識しての結果と課題

各教科や学校行事と情報教育の連携については、結果として大きな成果を上げることができたと思える。授業では、興味を引かせることで、授業そのものにも意欲的に取り組む雰囲気を作り出すことに成功し、文化祭などの学校行事や、VYS のボランティアなど、学校外活動にも情報教育を関連付けることで、生徒自身に自主性や責任感を持たせ、その活動の中でやりがいを感じさせ、関心・意欲・態度を育むこともできる。その結果として、現代の子どもに必要な自己肯定感の育成にもつながると考えられた。活動を通して、ほとんどの生徒が自主的、自発的に活動をすることができ、中でも発表スライドの作成においては、こちらが最初の指示だけ出せば、後は生徒たちが積極的に取り組む姿勢がみられた。１年生が分からないところは、３年生の先輩が教えるなど、学年の壁を越えた交流もみられ、大変喜ばしい光景であった。中島分校存続のためにも地域との連携は不可欠であり、自分の子どもを任せたい中島分校、将来入学したい中島分校を今後目指していくことが課題であるといえる。

6　おわりに

中島分校に赴任して２年目となった。この研究発表については、赴任当初から伝えられていたため、様々な構想を練ることができた。しかしながら、各教科や地域との連携についても伝統的な活動に情報の分野を取り入れた内容であり、真新しいことではなかったのではないかと反省している。教科担当や地域の方々が大変協力的で本当に多くの人に助けられた。まだまだ、やりたいことは多くあるが、現在の生徒の特性にあった内容を実践し、役立つ情報教育を心がけたい。このような貴重な場で、研究発表をさせていただき、本当に感謝している。これからも、情報教育力の向上に努めたいと思う。